



東洋鋼鋸グループ

環境報告書

2009年



東洋鋼鋸株式会社

# CONTENTS

会社概要	1
ごあいさつ	2

## 環境マネジメントシステム

---

1. 環境方針	3
2. 環境目的、環境目標および活動結果	4
3. 環境マネジメントシステムの状況	6

## 環境負荷低減への取り組み

---

1. 物質フロー	7
2. 省エネルギー・省資源	8
3. 二酸化炭素の排出抑制	9
4. 水域への排出抑制	9
5. 廃棄物の排出抑制	10
6. 環境リスクマネジメント	10
7. 環境関連法規制への対応	11
8. 省エネ設備の紹介	11
9. 環境に配慮した製品開発	12
10. 環境会計	14
11. 環境トピックス	15

## 社会との共生

---

1. コーポレート・ガバナンス	16
2. コンプライアンス	17
3. 社会貢献活動	19
4. 社会とのコミュニケーション	21
5. 従業員とともに	22
6. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント	25
7. 品質マネジメントシステム	26

## 東洋製罐グループとしての活動

---

## 環境保全活動の歴史

---

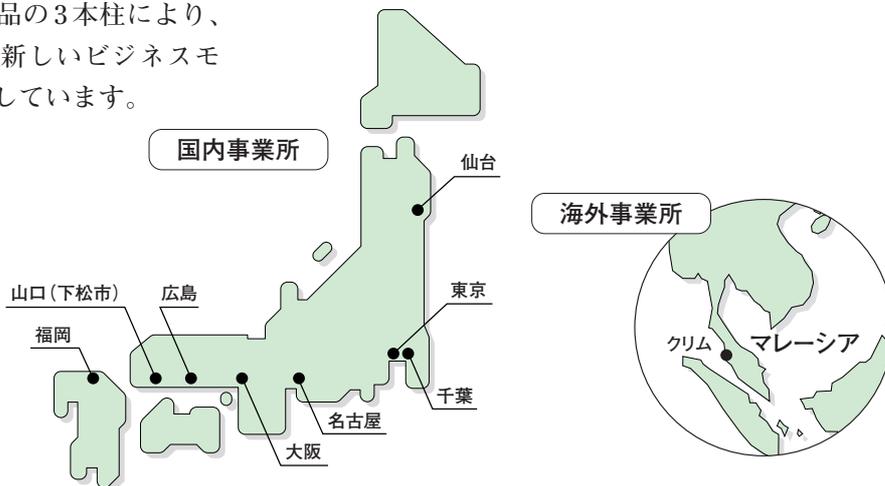
## 会社概要

東洋鋼鋅は、1934年の創業以来、快適で潤いある暮らしに欠くことのできない素材である「鉄」の豊かな可能性に着目し、表面処理鋼板界のパイオニアとして発展してまいりました。

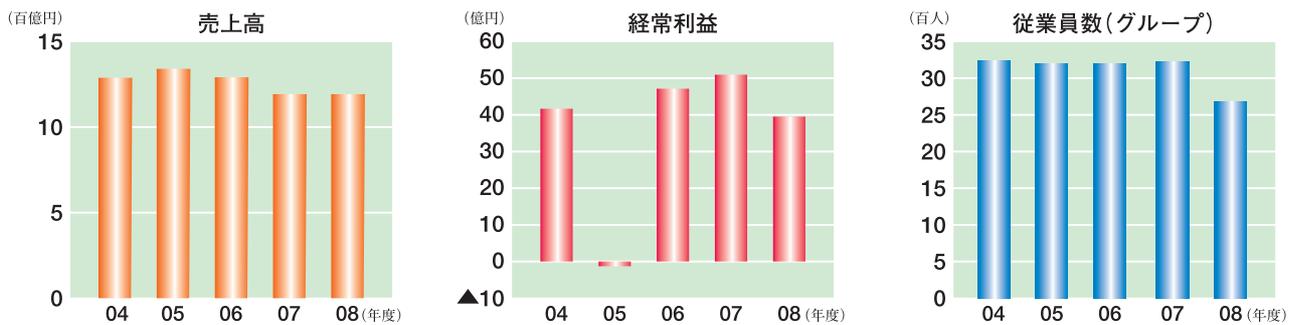
最新鋭の設備と高度な技術力を背景に、缶用材料をはじめ各種の高品質の薄鋼板、表面処理鋼板、高級化粧鋼板で優れた製品を世界に先駆けて開発、送り出し、多様なニーズにお応えしております。

鉄鋼から生まれた会社ですが、アルミや樹脂など鉄以外の素材価値も高めており、鋼板関連、機能材料関連、化成品の3本柱により、世界に類を見ない新しいビジネスモデルの会社を目指しています。

社名	東洋鋼鋅株式会社
英文社名	Toyo Kohan Co.,Ltd.
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,674名(2009年3月末)
売上高	1,192億円(2008年度、連結)
本社	東京都千代田区四番町2番地12
工場	山口県下松市東豊井1302番地
事業内容	ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板並びに各種機能材料等の製造・販売



## 売上高、経常利益、従業員数の推移(連結)



## グループ企業の事業内容

連結	国内	鋼鋅商事(株)	表面処理鋼板等の販売
		鋼鋅工業(株)	帯鋼および自動結束装置等の製造販売、硬質合金および磁気ディスク用基板の製造
		KYテクノロジー(株)	建材製品および梱包資材の製造販売、製材並びに木材の加工販売、建設業、建築設計並びに工事監理
	海外	TMT:クリム	磁気ディスク用基板の製造販売
非連結	国内	東洋パックス(株)	截断、検定、包装作業請負
		共同海運(株)	内航海運業、貨物利用運送業、通関業、海運代理店業
		下松運輸(株)	貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業、倉庫業
		東洋パートナー(株)	健保会館等福利厚生業務の請負および労働者派遣事業
	海外	上海東洋鋼鋅商貿有限公司	鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機などの販売及び付帯サービスの提供

## ごあいさつ



東洋鋼鈹株式会社  
代表取締役社長

田中 厚夫

当社は、本年(2009年)4月11日に創立75周年を迎えることができました。これを記念して「経営理念」、日常業務における「行動指針」、目指すべき目標「ビジョン」を策定いたしました。「経営理念」の最初の項目に「東洋鋼鈹は永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢献します」と謳っており、創業以来の缶用材料を中心としたものづくりを通じて、社会の発展と平和に貢献するという志を受け継いでまいりたいと考えております。

いま地球温暖化問題をはじめ地球環境の保全が重要な課題となり、二酸化炭素の排出量削減のための中長期的な対策も論じられてきております。社会が持続的に発展していくために、私たち東洋鋼鈹グループは率先して省資源・省エネルギー活動に取り組み、環境負荷の低減に努めてまいりたいと考えております。

当社グループは、「人と環境に優しい製品を安全に作ります」の理念のもと、省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組んでまいりました。2008年11月に、この活動を含めた専任組織として業務改革推進部を立ち上げました。また、2008年初より稼働の当社下松工場のボイラーにより、年間1万トン以上の二酸化炭素排出量削減を達成しております。製品に関しても、お客様の製缶工程での塗装や洗浄を省き、二酸化炭素排出量の大幅削減や排水ゼロを実現する「環境にやさしいタルク缶」用のフィルムラミネート鋼板を国内、海外で展開しています。また、95%以上という高い反射率を持つ銀鏡めっき鋼板「ミラーコートK」およびこの特性を活かし自然の光を室内へ取りこむ光ダクト「どこでも光窓」等の開発・普及に取り組んでまいりました。ひきつづき、環境負荷低減のための「省資源・省エネルギーの推進」及び「廃棄物の削減と再資源化」活動を進めるとともに、社会ニーズに積極的に対応した、製品の開発に努めてまいります。

この「環境報告書 2009年」を通じて、グループ環境方針に基づく(環境保全及び負荷低減実績、製品の開発状況、コンプライアンス推進活動など)環境マネジメントシステムの活動状況をご報告いたします。

私どもの環境活動をご理解いただくとともに、今後の活動をさらに改善、向上していくために、皆さまから率直なご意見をいただけましたら幸いです。

# 環境マネジメントシステム

当社下松工場は、1999年12月22日に日本検査キューエイ株式会社からISO14001の認証を取得し、さらに2004年12月16日には、東洋鋼鈹全社に国内グループ企業を含め、グループ9社統合での認証登録が認められました。

グループ統合環境マネジメントシステムを環境経営の基盤とし、環境負荷低減活動を継続的に推進しています。

## 1. 環境方針

当社の環境方針は、下松工場における産業公害の廃絶と地域社会との共生を基本姿勢として1973年10月に制定して以来、環境問題が様相を変えるにつれ、公害防止から循環型社会の構築に向けて自主的に行動する方針へと数次にわたって改正を

行い現在に至っています。

現在の環境方針は、東洋鋼鈹グループとしてのISO14001環境マネジメントシステム認証取得後、2005年7月19日付けで改正されたものです。

### 基本理念

東洋鋼鈹グループは、地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細やかな配慮を行いつつ、持続的に発展する循環型社会の形成に貢献します。

### 行動方針

- 1) 地球環境の保全活動を推進させるため、必要な組織を整備します。
- 2) 法規、条例およびその他の要求事項を遵守するとともに、自主的な管理基準を設定し、環境管理の継続的向上に努めます。
- 3) 生産、販売する製品のライフサイクルにわたる環境負荷を事前に評価し、環境保全に留意した製品開発、技術開発を推進します。
- 4) 企業活動全般にわたり省エネルギー、省資源に努めるとともに、発生する廃棄物の減量化、再利用を推進し環境負荷を低減します。
- 5) 大気汚染物質、地球温暖化物質、有害物質など環境負荷の高い物質に関しては、可能な限り代替物質へ切り換えるとともに代替技術の採用を行います。
- 6) 地球市民として、リサイクル運動などの社会貢献活動に積極的に参画します。
- 7) 社員の環境意識を高揚するために、教育、啓発、広報活動などを行うとともに、地域の環境改善活動への自主的参加を支援します。

(2005年7月19日改正)

## 2. 環境目的、環境目標および活動結果

2008年度の活動の結果による環境目標の活動状況・評価は下記の通りです。

環境目的	環境目標			活動状況・評価	
	目標項目	目標値	活動部門		
環境配慮型製品の開発および拡販	環境配慮型製品の拡販	売上高・販売比率の向上	東洋鋼鈹(株)	売上高:7.6%向上 販売比率:2.9%向上	○
		樹脂バンドの拡販	鋼鈹工業(株)	客先生産減により 達成率96.5%で未達成	×
		サイクルハウス、サイクルラック、クリーンエースの販売促進	KYテクノロジー(株)	目標を達成	○
	環境配慮型製品の開発	開発項目2項目推進	東洋鋼鈹(株)	計画通り2項目推進	○
		情報収集および開発促進	鋼鈹工業(株)	情報収集およびリサイクル材原料入手に関し進展	○
		新製品および既存製品の検討	KYテクノロジー(株)	2件完了(顧客向けの製品開発および新規製品の用途開発)	○
環境負荷低減	省エネルギーの推進	エネルギー消費量削減 前年比1%削減	東洋鋼鈹(株)	10.7%削減	○
			鋼鈹工業(株)	0.5%削減	×
			KYテクノロジー(株)	4.3%削減	○
		燃料使用量1%削減	下松運輸(株)	8.9%削減	○
		社船燃料1%削減	共同海運(株)	18.7%削減	○
	廃棄物の削減と再資源化の推進	対前年度より向上	東洋鋼鈹(株)	廃棄物は3.5%削減 再資源化率は1.8%低下	○
		対前年度より向上	鋼鈹工業(株)	廃棄物は73.5%削減 再資源化率は1.6%向上	○
		対前年度より向上	KYテクノロジー(株)	廃棄物は32.5%削減 再資源化率は0.2%低下	○
		再資源化率向上	下松運輸(株)	廃棄物0、再資源化100%	○
		廃棄物の再資源化推進	共同海運(株)	廃棄物0、再資源化100%	○
	化学物質管理	PRTR対象物質削減検討	東洋鋼鈹(株)	使用状況調査は完了、 代替および削減検討開始	○
		PRTR対象物質削減検討	鋼鈹工業(株)	使用状況調査は完了、 一部物質について削減推進中	○
		代替物質検討	KYテクノロジー(株)	代替物質移行評価試験実施	○
	事務用品のグリーン購入	購入比率70%以上	グループ各社	74.7%で達成	○
	環境マネジメントシステムの発展	グループEMSの充実	環境関連法順守の強化	グループ各社	チェックリストの作成と 内部監査体制の強化
内部監査の強化			グループ各社	外部講習受講と 内部教育の実施	○
コミュニケーションの促進		グループ環境報告書の充実	グループ各社	2007年ガイドラインに準拠	○

### 2008年度の活動状況・評価

- 環境配慮型製品の開発および拡販は、客先の生産減の影響はあるものの着実に成果をあげています。今後共に社会ニーズに応じていきたいと考えています。
- 省エネルギーの推進は、グループ全体として8.9%の削減と大幅に目標を達成しています。引き続き省エネ活動を推進していきます。
- 廃棄物については、グループ全体で約500トンの削減がはかられました。
- 製品含有規制化学物質管理については、①使用規制物質の拡大、②適用範囲の拡大、③情報管理システムの充実 等の対策を推進してまいります。

2009年度の環境目的および環境目標は下記の通りです。

環境目的	環境目標			手段	
	目標項目	目標値	活動部門		
環境配慮型製品の開発および拡販	環境配慮型製品の拡販	売上高・販売比率の向上	東洋鋼鈹(株)	販売部門の拡販計画による	
		樹脂バンドの拡販	鋼鈹工業(株)	サンプル提供と新規顧客へのPR	
		サイクルハウス、サイクルラック、クリーンエースの販売促進	KYテクノロジー(株)	ホームページ等による製品PR	
	環境配慮型製品の開発	開発項目5項目達成	東洋鋼鈹(株)	公害関連物質の削減、省エネルギー等	
		情報収集および開発促進	鋼鈹工業(株)	デザインレビューで環境配慮型材料使用の検討	
		新製品および既存製品の検討	KYテクノロジー(株)	製品の改良、再設計および副資材の見直し	
環境負荷低減	省エネルギーの推進	エネルギー消費量削減 前年比1%削減	東洋鋼鈹(株)	歩留・原単位向上と設備対策	
		燃料使用量1%削減	鋼鈹工業(株)	歩留、原単位の向上	
			KYテクノロジー(株)	生産・輸送方法の見直しおよび省エネ設備の検討	
		社船燃料1%削減	下松運輸(株)	輸送効率向上、省エネ機器導入、燃料転換等	
	廃棄物の削減と再資源化の推進	対前年度より向上	共同海運(株)	輸送効率向上 (共同運航、積載率、配船)	
		対前年度より向上	東洋鋼鈹(株)	リサイクル可能物品への代替購入検討および処理ルートの再確認と変更	
		対前年度より向上	鋼鈹工業(株)	リサイクル可能物品への代替および再使用率の向上	
		再資源化率向上	KYテクノロジー(株)	一覧表管理の徹底および木くず再資源化率の向上	
		廃棄物の再資源化率維持(100%)	下松運輸(株)	処理ルートの検討	
	化学物質管理	PRTR対象物質削減検討	共同海運(株)	処理ルートの確認	
		PRTR対象物質削減検討	東洋鋼鈹(株)	使用量の削減、代替品の検討、技術開発等による削減の検討・推進	
		代替物質検討	鋼鈹工業(株)	使用実績の把握および代替検討	
	事務用品のグリーン購入	代替物質検討	KYテクノロジー(株)	使用実績の把握および代替検討	
	環境マネジメントシステムの発展	グループEMSの充実	購入比率80%以上	グループ各社	啓蒙、啓発および定着化
			環境関連法順守の強化	グループ各社	法順守評価表およびチェックリストの充実
内部監査の強化		グループ各社	外部講習受講と内部教育の充実		
コミュニケーションの促進	グループ環境報告書の充実	グループ各社	社会性報告内容の充実		

### 3. 環境マネジメントシステムの状況

#### ● 環境マネジメントシステムの構築

当社の環境保全に関する取り組みは、主力生産拠点である下松工場主導で進めてきており、1999年12月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001:1996を下松工場として認証取得しました。

近年、環境問題は、オゾン層破壊、温暖化、酸性雨等、地球規模での取り組みが求められています。このような地球環境問題に積極的に取り組み、

環境負荷の低減や環境汚染の予防等の対策を実施していくにあたって、全社、さらにはグループ企業を含めた一体としての活動が重要と考え、2004年12月にグループ統合ISO14001の認証を取得しました。

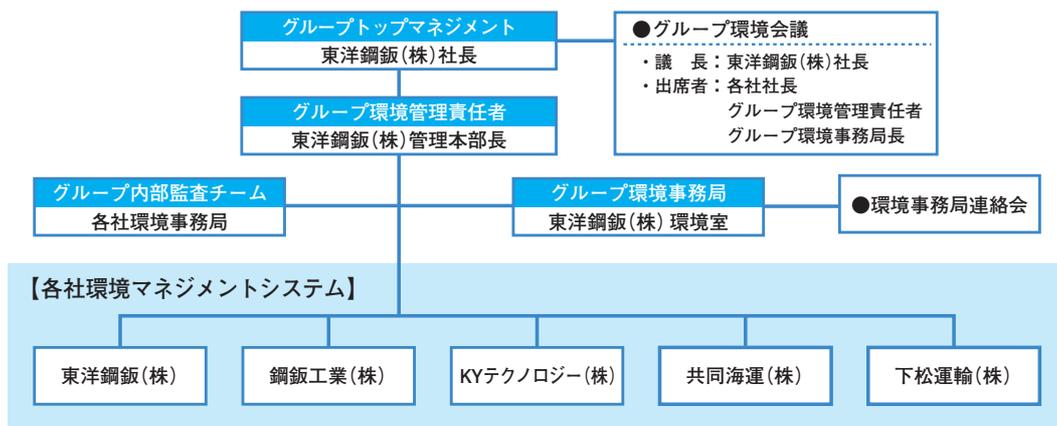
また、2005年12月には、ISO14001:2004年版への移行も完了しました。

#### ● 環境マネジメントシステムの推進体制

グループ統合の環境マネジメントシステムでは、グループ環境会議において、グループの環境方針、環境目標を審議・決定し、グループ各社で具体的な環境目標、実施計画を立てて活動しています。

なお、このシステムの実効をあげるため、および

継続的改善を図るために、グループ各社の環境事務局を対象としたグループ内部監査を実施し、グループ各社の運用状況および成果を監査・確認しています。



※東洋鋼鉄(株)環境マネジメントシステムには、鋼鉄商事(株)、東洋ボックス(株)および東洋パートナー(株)を含みます。

#### ● 環境マネジメントシステムの範囲拡大

海外のグループ企業についても環境マネジメントシステムの範囲拡大を進めております。当社のマレーシアにある海外連結子会社TMT(Toyo-Memory Technology Sdn. Bhd.)では、2006年より環境マネジメントシステムの構築を進めてきましたが、2007年12月14日にIQ NetとSIRIM QAS International Sdn. Bhd.よりISO 14001認証取得が承認されました。

##### 【TMT会社概要】

会社名：Toyo-Memory Technology Sdn.Bhd.  
 創立：1997年3月  
 資本金：75百万リンギット  
 従業員数：247名(2009年3月)  
 所在地：クリムハイテクパーク  
 事業内容：磁気ディスク用アルミ基板製造



# 環境負荷低減への取り組み

当社並びにグループ企業の生産拠点である下松は、瀬戸内海国立公園の青い海と緑豊かな山に囲まれた美しい自然の中に位置しています。この恵まれた環境との共生を図るために積極的に環境負荷低減活動を展開しています。

## 1. 物質フロー

グループでは、ぶりきやラミネート鋼板をはじめとした各種表面処理鋼板、高品質の薄鋼板などの鋼板製品および鋼板の加工品（鋼板関連事業）、硬質合金、電子機器部品、クラッド材、機械器具等（機能材料関連事業）、並びに光学用および容器用機能フィルム（化成系事業）を製造しています。

2008年度の環境面から見たグループの物質フロー

は下図の通りで、主要な原材料として熱延コイルを使用し、製造工程におけるエネルギー源として電気、重油、都市ガスを使用し、さらに表面処理時の洗浄や設備の冷却などに水を使用しています。その過程で、CO<sub>2</sub>、COD、埋立廃棄物等が環境負荷物質として排出されています。



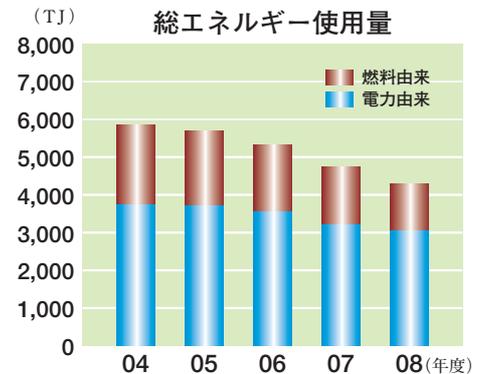
## 2. 省エネルギー・省資源

### ● 総エネルギー使用量

2008年度の事業活動におけるグループの総エネルギー使用量（ジュール換算値：製品物流は除く）は4,293TJで、前年度比9.3%減少しました。

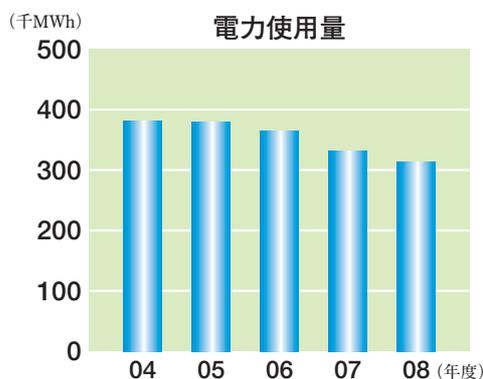
使用エネルギーの内訳は電力使用によるものが71.4%を占めており、残り28.6%は燃料使用によるものです。

使用エネルギーは、この4年間で26.7%減少しています。要因としては、生産量の減少、品質構成の変化と共に設備改善効果によるものです。



### ■ 電力使用量

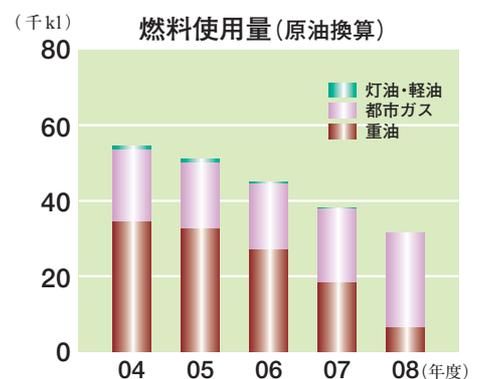
グループの総電力使用量は314千MWhで、前年比5.5%削減しました。



### ■ 燃料使用量

グループの総燃料使用量（原油換算：製品物流は除く）は31.5千klで、前年度比17.3%削減しました。

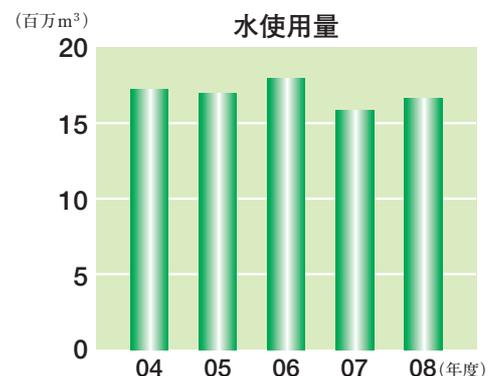
直近4年間で燃料使用量は42.3%減少しており、その内訳も重油からより環境負荷の少ない都市ガスへと転換を図ってまいりました。



### ● 水使用量

グループの総水使用量は16.5百万m<sup>3</sup>で、前年度比4.0%増加しました。グループでは表面処理鋼板や磁気ディスク基板の製造に多くの用水を使用していますが、冷却塔、ろ過処理設備等の活用により、用水の85%を循環利用しています。

21世紀は水問題の世紀とも言われており、今年度は更なる節水を目指して、活動を展開しています。

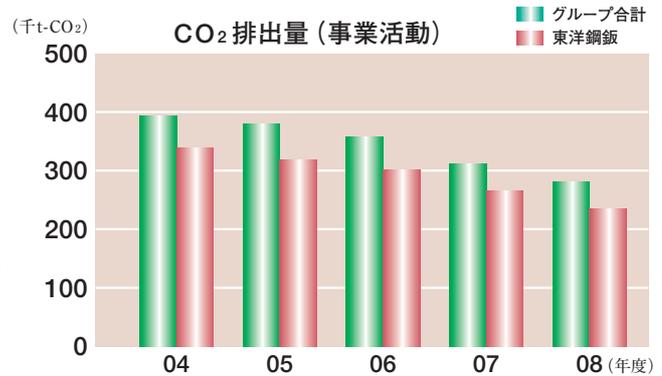


### 3. 二酸化炭素の排出抑制

#### ● 事業活動にかかわる二酸化炭素排出量 (製品物流を除く)

事業活動にかかわるグループの総CO<sub>2</sub>排出量は280千t-CO<sub>2</sub>で、前年度比10.1%削減となりました。

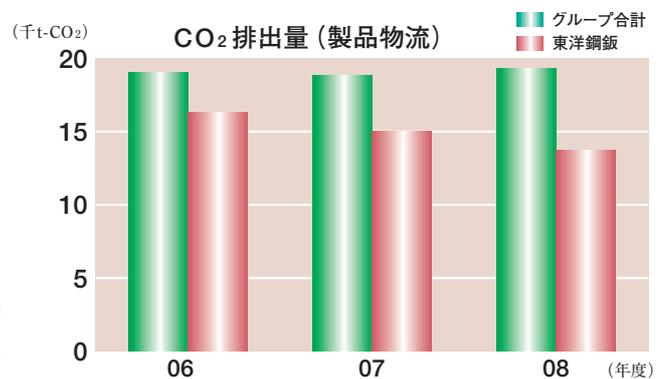
生産性の向上対策と共に省エネ設備の導入や高効率化、および負荷の少ない燃料への転換を進め、CO<sub>2</sub>の排出削減に取り組んでいます。



#### ● 製品物流にかかわる二酸化炭素排出量

製品物流にかかわるグループの総CO<sub>2</sub>排出量は19.3千t-CO<sub>2</sub>で、前年度比2.4%増加となりました。輸送会社、特定荷主以外の会社でも集計対象を拡げてまいりましたが、08年度は1社が追加されたためです。

東洋鋼鈹(株)の総CO<sub>2</sub>排出量は、13.7千t-CO<sub>2</sub>で、前年度比8.9%削減となりました。効率的な製品物流を計画し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めた結果です。

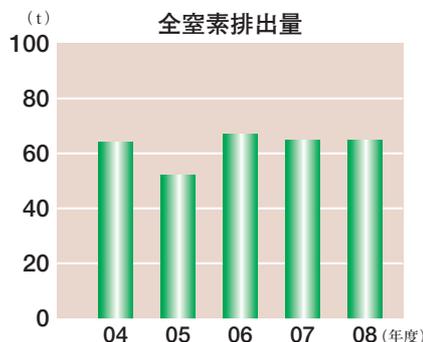
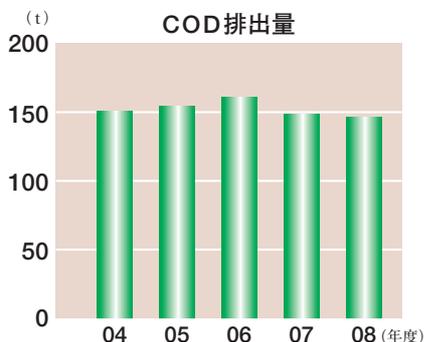


### 4. 水域への排出抑制

#### ● COD、全窒素および全リン排出量

2008年度のCOD、全窒素および全リンの排出量は水質汚濁防止法に規定されている第6次総量規制努力目標値の順守のため、運転管理の強化に努め、全ての項目をクリアしています。

グループの事業活動で発生する、酸洗排水、含油排水、めっき排水等は、その種類に応じて適切に中間処理され、総合排水処理設備に送られ、最終的に一括して凝集沈殿処理をされます。

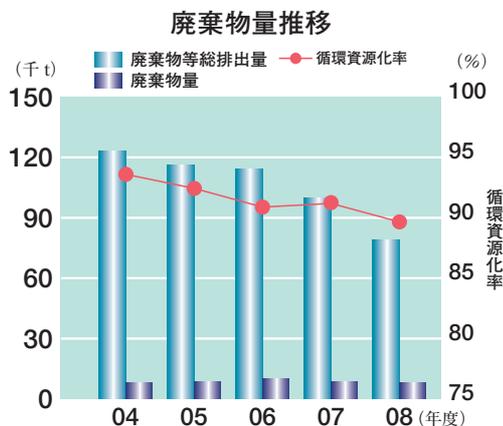


## 5. 廃棄物の排出抑制

### ● 廃棄物量

グループの総廃棄物等排出量は79.0千tで、前年度比20.8%削減しました。生産歩留の向上によるものです。ただし同様の理由で有価売却物が減ったため、循環資源化率が減少しました。

廃棄物量については7.9千tで、前年度比5.1%削減しました。



### ● ゼロエミッション活動

事業活動の中で発生する金属屑、硫酸鉄等は有価売却しています。産業廃棄物および一般廃棄物は可能な限り再資源化原料として有効活用されるよう排出しています。

さらに各廃棄物でも焼却処理対象の廃棄物については、熱回収を伴う焼却および焼却残渣の再利用を推進し、ゼロエミッション活動に積極的に取り組んでおります。

廃棄物再資源化状況

対象物	自社再資源化処理	再利用用途
金属屑		金属原料(売却)
錫めっき廃液	中和設備で錫回収	錫原料(売却)
廃硫酸	硫酸処理施設で硫酸鉄回収	プリンタナー顔料(売却)
廃油	油水分離設備で油回収	焼却燃料、燃料再生
廃プラスチック	リサイクル設備でペレット化	自社循環、樹脂原料(一部売却)
木屑		ボード原料、紙原料
紙くず		紙原料

## 6. 環境リスクマネジメント

### ● 緊急時の対応訓練

多量のエネルギー、薬品等を使用する工場が事故が発生した場合、地域社会にも大きな影響をもたらすことを認識し、グループでは事故発生の防止のために、厳しい自主基準による管理を実施し環境リスクの低減を図っています。また、万一の事故の発生に備え、緊急事態への対応手順を定め定期的な訓練を実施しています。更に、下松工場では、全社での対応を確認するため、本社と合同で訓練を実施しています。2009年は「地震の発生により、排水口より油が公共用水域に流出した」という想定で訓練を実施しました。確実な処置および社内での伝達、関係先への通報等問題なく行われました。

### ● PCB 廃棄物の管理

PCB 廃棄物については、適切な保管、届出を行い、日本環境安全事業株式会社 (JESCO) のスケジュールに従い処理する予定です。

### ● 環境測定

排水や排ガスの状況については、定期的なバッチ分析や自動分析装置による連続測定により常に監視を行い、環境異常の未然防止に努めています。2008年は排水異常の早期発見、早期処置を目的に、排水処理系にT-NおよびTOC計の設置を行いました。これらの連続測定器により排水異常の早期発見、早期処置が可能となり、従来にも増して環境リスクの低減が図れるようになっています。

### ● アスベスト対策

下松工場の石綿(アスベスト)は、吹き付け材については撤去を行い、既存設備に使用された非飛散性の石綿含有製品についても、補修等にあわせて非石綿製品へ交換を行っています。また、建築物・工作物解体時には事前届出および作業場の隔離等の措置を徹底しています。

## 7. 環境関連法規制への対応

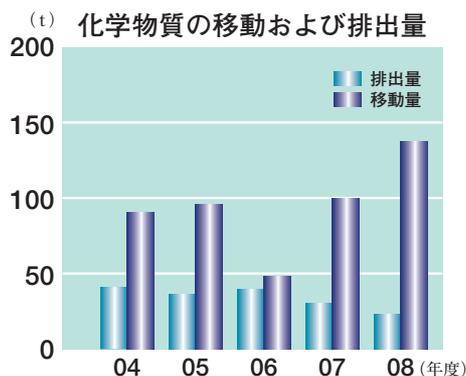
### ● 環境関連法規制順守状況

2008年度は、排水の懸濁物質が水質汚濁防止法の基準超過の1件の環境関連異常が発生しました。異常に対し、設備対策を実施するとともに、運転

手順の見直しおよび教育による再発防止対策を講じています。

### ● 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)

グループの排出量は前年度比24.1%減少したものの、移動量は前年度比38.0%の増加となりました。廃棄物(汚泥)に含有しているNi量の増加によるものです。



### ● グリーン購入法

グリーン購入法適合商品等の表示のある物品を積極的に購入するよう努めています。2008年度のグループ全体の事務用品のグリーン購入率は、74.7%で前年度から約11%向上しました。

### ● 東洋鋼鋳グループのグリーン購入実績

		グリーン購入率* (%)		
		2006年度	2007年度	2008年度
東洋鋼鋳	本社	82.0	84.3	90.3
	下松工場	56.7	60.2	76.0
鋼鋳工業		45.4	62.6	68.1
KYテクノロジー		48.8	66.1	67.4
共同海運		65.9	71.6	70.6
下松運輸		56.1	61.1	71.2
グループ全体		56.4	64.2	74.7

\*事務用品の全購入金額に対するグリーン商品購入金額の割合

## 8. 省エネ設備の紹介

2008年1月より新たに都市ガスを燃料とする、No.2ボイラーを稼動しました。

このボイラーを優先的に稼動させ、設備効率の向上を図ることにより、2008年度は重油換算で約370klの省エネ効果が図られました。



▲ No.2号ボイラー

## 9. 環境に配慮した製品開発

東洋鋼鉄グループでは、単に素材を供給するメーカーとしてではなく、人の暮らしと豊かなコミュニケーションを何よりも大切に、新しい材料の開発を通して環境と調和した持続的に発展する循環型社会の形成を目指します。

### ● CO<sub>2</sub>排出量低減型製品「ハイペット」

環境負荷低減に有効な缶用材料「ハイペット」は東洋鋼鉄の主力製品です。ハイペットはTULC缶の素材として開発され、コーヒー、ビールなどの飲料缶、ツナ缶など食缶用のラミネートDR缶、業務用の18リットル缶として広く皆様に愛用されています。

ハイペットはリサイクルに有効な鋼材やアルミをポリエステルフィルムでラミネートした材料であり、缶の製造工程での塗装、洗浄を省略できるなど環境面で多くの利点を持つ製品です。最近ではビールメーカーが二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の搬出量が少ないアルミ缶として「ラミネート缶」の採用を拡大しており、ハイペットの利点が注目されています。

▼aTULC缶



### ● ハードディスクドライブ(HDD)用アルミ基板

HDDは、パソコンやビデオレコーダーなどに主に組み込まれていますが、情報社会を支えるデータセンターなどに多量に使用されるサーバーの中にも、膨大なデータを処理、保存する装置として使われています。このサーバーの低消費電力化はHDDの性能に大きく依存しています。

サーバー用HDDには小型メディアが使用され、性能向上やデータ処理の信頼性確保のため、その基板には高い品質が求められています。

当社では、このサーバー用HDDに使用される小型メディア用アルミ基板を製造、販売し世界トップシェア(約50%)となっています。この省資源、高品質、高付加価値のアルミ基板の拡販を通じ、環境に配慮した情報社会の発展を支えていきます。

▼アルミ基板



▲データセンター



▲HDDが搭載されたサーバー

### ● 硬質合金 KH

東洋鋼鉄が独自に開発した硼化物系焼結硬質合金KH。優れた耐腐食性と耐摩耗性を有し、射出成形機の部品(スクリュ・シリンダー)の市場で特性No.1の評価をうけています。

近年、環境負荷低減・省資源が叫ばれていますが、新しい材料、技術を導入し量産する際に未知なる問題の発生が危惧されています。例えば、ニーズの高いハロゲンフリーのプラスチック材料は、射出成形時に部品への腐食性が非常に強いという問題がありましたが、KH部品を使用することで安定的な生産が可能となりました。また、省資源

照明用として採用が進められている白色LED。

その周辺プラスチック部品の射出成形時の摩耗も、KHの使用によってその解決が図られています。このように、環境に適応した新しい材料・技術を用いた製品の生産にKHは貢献しています。

▼硬質合金 KH



## エコロジカルな 3 商品で応接室を改装

ミラーコート

ファイバーコート

ファイントップイオ

2009年9月、環境に配慮した3商品を使用して本社2階応接室を改装しました。

鋼板上に銀めっきを施した高効率反射材「ミラーコートK」は、当社が世界に先駆けて開発した銀鏡めっき処理技術を応用したものです。今回、この応接室では、ウォールウォッシャータイプの照明反射板としての可能性を提案しています。また、可視光線の反射率95%以上という特性は、窓の設置が難しい場所への採光を容易にする採光システム「どこでも光窓」(本社横のエコライフプラザに展示)にも使用されています。

高機能植毛鋼板「ファイバーコート」は、鋼板に短繊維ナイロン66を植毛したもので、ホルムアルデヒド等有害成分を含まないためそのまま鉄スクラップとしてリサイクル可能な商品です。植毛により得られる優れた保水性能は結露による水滴落下防止が求められる駅ホーム、工場や集荷施設の屋根材として最適で、多くの採用実績があります。

また、植毛層には断熱効果もあり、省スペース・工期短縮に貢献することから、工場・店舗・オフィスでのダクト材としても採用の輪が広がっています。

安価でありながら塗料密着性など優れた特性を持ち、缶用材料としてもすっかり定着した「TFS」。VOC(揮発性有機化合物)を含まないポリエステル樹脂フィルム「Eシート」。これらを組み合わせた化粧鋼板が「ファイントップ・イオ」です。まさに缶用材料「TULC材」の製造技術を建材に活かしたもので、間仕切り材や壁パネル材として使用されています。柔軟なフィルム特性から得られる優れた加工特性とマット調仕上げが醸し出す落ち着いた雰囲気は、いずれもカラー鋼板では得ることのできない独特な特徴です。

いずれも環境にやさしい建材商品として、戸建住宅や工場、オフィス等へ採用されるなど、その可能性の広がりにも熱い注目が集まっています。

ファイバーコート

天井パネルや壁パネルに使用した例。ソフトな風合いは壁材にも最適(不燃認定取得済み)。



ファイントップイオ

LED照明の反射板ならびにパンチング加工して天井パネルとして使用した例。



ミラーコートK

間接照明用の反射板としての施工例。インテリアデザインの一アイテムとして注目が高まっています。



## 10. 環境会計

環境会計とは、「事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し分析し、公表するための仕組み」です。2006年度実績から、グループとしての集計を実施しました。

集計範囲：東洋鋼鉄グループ  
対象期間：2008年4月1日～  
2009年3月31日

### ● 環境保全コスト

2008年度環境保全コスト総額（設備投資額＋費用額）は27.4億円で前年度比、1.0億円減少しました。設備投資額が2.1億円減少、全設備投資額に占める割合も2.4%減少しました。環境負荷の低い製品の開発費については、4.6億円に増加し、全研究

開発費に占める割合も4.9%増加しました。

環境負荷については、水の使用量を除き、エネルギー使用量およびCO<sub>2</sub>排出量、廃棄物等総排出量、廃棄物量が対前年度比削減となりました。

#### 〈環境保全コスト〉

(百万円/年度)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額		費用額	
		2008	2007	2008	2007
事業エリア内コスト		930	1,157	901	889
公害防止コスト	大気汚染、水質汚濁防止活動、設備保守点検	22	24	385	355
地球環境保全コスト	省エネルギー活動	908	1,109	2	91
資源循環コスト	廃棄物回収、再資源化	0	23	515	534
上下流コスト	包装材の回収リサイクル	0	0	348	357
管理活動コスト	ISO14001維持向上活動、環境負荷監視	0	0	107	100
研究開発コスト	環境負荷の低い製品開発	141	122	315	219
		2008	2007		
	設備投資額＋費用額	456	341		
	全研究開発費	1,646	1,493		
	対全研究開発費比	27.7%	22.8%		
社会活動コスト	環境美化活動	0	0	0	0
環境損傷コスト		0	0	0	0
合計		1,071	1,278	1,672	1,565
	全設備投資額	5,944	6,260		
	対全設備投資額比	18.0%	20.4%		
環境保全コスト合計(設備投資＋費用額)		2008		2007	
		2,743		2,843	

#### 〈環境保全効果〉

効果の内容		環境負荷指標			
項目	単位	総量		対前年度比削減量	
		2008	2007		
事業エリア内で生じる環境保全効果	エネルギー使用量	TJ	4,293	4,733	440 (9.3)
	(内訳) 電力由来		3,067	3,243	176 (5.4)
		電力以外		1,227	1,489
	水使用量	千m <sup>3</sup>	16,512	15,876	▲636 (▲4.0)
	CO <sub>2</sub> 排出量	千t-CO <sub>2</sub>	280	312	32 (10.3)
	(内訳) 電力由来		212	221	9 (4.1)
		電力以外		68	91
	廃棄物等総排出量	t	78,986	99,790	20,834 (20.9)
	廃棄物量(埋立・単純焼却)		7,926	8,422	496 (5.9)

## 11. 環境トピックス

### ● ノーマイカーデーの推進

当社下松工場では、地球温暖化を防止するため、6月と12月を「ノーマイカー強化月間」としてノーマイカーデー推進に取り組むことにしています。毎週金曜日をノーマイカーデーに設定し、従業員および協力会に対し会議等を利用し参加を呼びかけました。その結果、2008年度は、のべ339名が参加し、1,367kgのCO<sub>2</sub>が削減されました。

### ● 「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」

環境省では、2003年より地球温暖化防止のため、ライトアップ施設や家庭の電気を消すよう呼びかける「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」を実施しています。

当社ではこのキャンペーンの趣旨に賛同し、従業員に参加を呼びかけるとともに、2009年6月21日、7月7日の20時～22時の2時間、下松工場の社名看板を消灯して協力しました。



▲キャンペーンポスター

### ● 環境教育

グループでは、ISO14001環境管理活動の中で従業員や内部監査員に対する講習や環境セミナーの受講等の環境教育を積極的に実施しています。2008年度は、内部監査員を対象にした「上級内部監査員講習」への派遣や「法令解説講習」についても実施しました。また、公害防止管理者の資格取得についても積極的に推進しており、有資格者数は右表の通りとなっています。

大気	1種	13名
	その他	3名
水質	1種	28名
	その他	1名
騒音		9名
振動		5名
主任		7名

### ● 交替係長制度

当社下松工場では、休日、夜間時の安全・防災・環境に関する緊急事態には、従来、当直者で対応していましたが、2008年度からは交替係長制度を設け、より迅速で確実な対応がとれるように組織の変更を行っています。

交替係長は、4直3交替の24時間体制で安全・防災・環境に関する巡視、指導を行うとともに、緊急事態が発生した場合には、関係先への連絡、設備停止等の応急処置を行います。

### ● 高効率ボイラーの導入

当社下松工場では、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>削減のため、高効率の液化天然ガスボイラー設備の建設を進めていましたが、2007年12月に完成し2008年1月より運転しています。

このボイラーは、環境省から自主参加型排出権取引に参加することを条件とした補助金を受領して建設しており、2008年度に基準年度比(2004-2006年度の3年間の平均値)で10,159tの削減を約束しています。2008年度の実績は、69,522tと大幅に目標を上回る削減を達成しています。



▲No.2号ボイラー

### ● 環境家計簿

グループでは、地球温暖化防止のため、各家庭での排出実態の把握の目的で、環境家計簿の作成を呼びかけました。20家庭(66名)の方の参加をいただき、平均の実績は2,004kg/人・年でした。今年度も継続して環境家計簿の作成を呼びかけています。家庭での二酸化炭素排出の削減につながっていればと考えています。

# 社会との共生

東洋鋼鈹グループでは、社会貢献活動、地域社会とのコミュニケーション等様々な活動を通じて、グループに関わるステークホルダーの皆様から信頼される企業づくりを推進しています。

## 【企業の社会的責任(CSR)の遂行】

2007年5月に発表した「東洋鋼鈹グループ中期経営計画」において、CSRの遂行を基本方針の一つに位置付け、法令順守、内部統制、環境経営」の体制整備および強化を図り、社会に信頼される会社を目指すことを明確にしました。

## 1. コーポレート・ガバナンス

当社は、優れた技術と正しい方法によって市場のニーズに合致した最高の製品を提供し、お客様に満足していただくことを通じて社会に有益な存在であり続けたいと考えます。この有益な価値を

発信するために、コーポレート・ガバナンスを重要な経営課題と認識し、企業統治と企業リスク管理が有効に機能するように、経営の透明性と公正性の一層の向上に努めています。

### ● マネジメント体制

当社は、取締役による経営の意思決定および監督機能と業務執行機能を明確にし、経営環境の変化に対して迅速な対応を行うために執行役員制度を採用しています。取締役会は、現在8名の取締役で構成され、うち社外取締役は1名となっています。

執行役員制度の導入にあわせて、業務の責任と権限を明確にし、かつ迅速、的確な業務執行を目的とした本部制を採用しています。6本部の本部長には執行役員が就き、取締役会が決定した方針に基づいて業務執行にあっています。

また、経営の機動性のさらなる向上を図るため、取締役および執行役員の任期は1年としています。

### ● 監査体制

当社は、独立した会社の機関である監査役4名(うち社外監査役2名)で構成される監査役会を設置し、各監査役は取締役会等の重要会議に出席するほか、取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、内部監査部門が年度計画に基づき実施し、その監査結果は取締役会で報告されています。

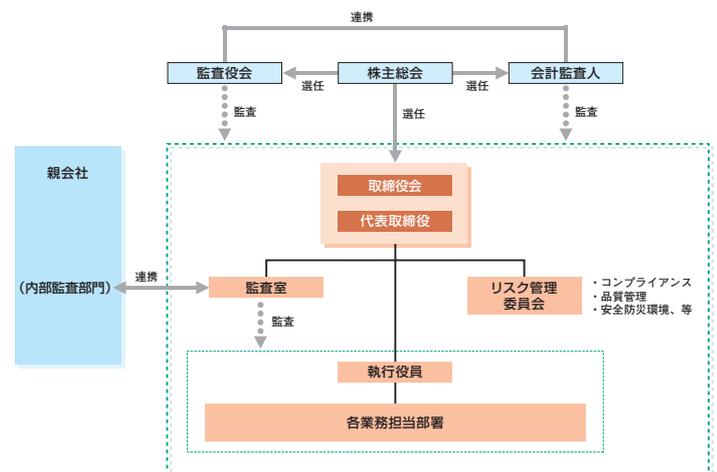
また、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を取締役会で定め、本方針に基づき内部監査部門が中心となり同体制の整備にあっています。

### ● リスク管理体制

当社は、事業運営に係るリスクを体系的に識別、分析、評価するとともに、全社横断的な対応を図るため、リスク管理委員会を設置しております。

具体的には、コンプライアンス、生産・販売、品質、環境、情報管理、自然災害・事故およびその他の予見されるリスクを取り上げております。

### ● 内部統制システムの概要を含むコーポレート・ガバナンス体制



## 2. コンプライアンス

当社は、企業活動全般に求められる「社会的公正」や「法令順守」の実現には、コンプライアンスの徹底が不可欠と認識しています。

そのため、「法令や社会的規範を守り、高い倫理観を持って行動します」を行動指針に掲げ、法令および企業倫理の順守に積極的に取り組むことで、広く社会から信頼されることを目指して企業活動を遂行してまいります。



### ● 企業行動規準

当社は、2005年3月、役員および社員一人ひとりが高い倫理観に基づき適切な判断基準を持って正しく行動するための手引きとして「企業行動規準」を制定しました(2006年8月東洋鋼板グループ企業行動規準に改訂)。

企業行動規準は、当社グループにおいて最も順守すべき事項としている次の項目から構成されています。

また、2009年4月には、当社の経営理念、行動指針およびビジョンなどを記載した「TOYOKOHAN GATE100」をグループ社員に配布し、「永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢

献する」など当社の目指す方向性を明確にするとともに、自身が行動するときの判断指針としています。

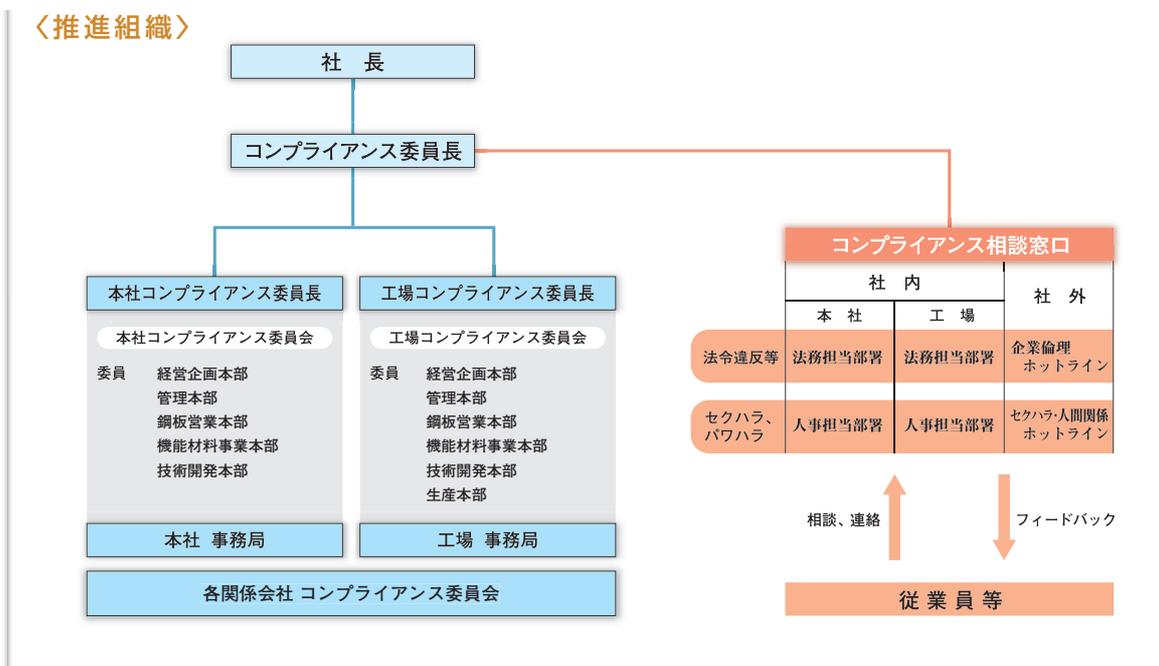
- ・ 素材を供給する専門メーカーとしての取り組み
- ・ 人権と個性の尊重
- ・ 環境保全への積極的な取り組み
- ・ 取引先・行政との健全な関係
- ・ 情報の適正な管理と開示
- ・ 反社会的勢力に対する姿勢
- ・ 公私のけじめ
- ・ 海外業務における心構え

### ● コンプライアンス運営の仕組み

#### ・ コンプライアンス委員会

コンプライアンス上のリスク管理の一環として、リスク管理委員会の下部組織として本社および下松工場にコンプライアンス委員会を設置しています。

コンプライアンス委員長は、当社グループと当社のコンプライアンスの統括と推進を行います。



・コンプライアンス相談窓口

企業行動規準をはじめコンプライアンスに関して疑問や質問があったとき、また法的、倫理的に不適切な問題の発生に気付いたときに相談、連絡するために社内の相談窓口と社外の相談窓口を設け、組織

の自浄作用による解決を目指しています。

この制度の利用者が不利益を受けないことや個人情報等の保護については、社内規程に明記しており、社員が安心して利用できるようになっています。

<p><b>【社内相談窓口】</b> 当社グループにおいては各社それぞれで社内相談窓口を設置しています。当社は次の部署が対応しています</p>	<p>「企業倫理・法令違反等」相談</p>	<p><b>【社外相談窓口】</b> 社内の人には相談しづらい、あるいは社内窓口で相談したがなかなか対応してもらえないといった場合に備え、当社グループ各社が共同して社外相談窓口を設置しております。具体的には「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置し、2008年4月からは匿名での受付や職場の人間関係の悩みの相談も開始し、相談機能の拡大を図っています。</p>
	<p>▼ 本社・下松工場 各法務担当グループ</p>	
	<p>「セクハラ・パワハラ」相談</p>	
	<p>▼ 本社・下松工場 各人事担当グループ</p>	

● 2008年度の主な活動実績

・コンプライアンス推進月間

2007年度から毎年10月を「コンプライアンス推進月間」として、従業員一人ひとりが自らの行動や日常業務のやり方を見直したり、周知・啓蒙活動を通してコンプライアンスのより一層の強化に取り組んでおります。

トップメッセージの発信、相談窓口利用方法の周知、コンプライアンス推進月間や社外相談窓口のPRポスターの掲示、アンケート調査などの活動を行いました。

・コンプライアンス／リスク研修

中国・ビジネス法務研修会

2009年2月に森・濱田松本法律事務所の江口拓哉弁護士を招いて中国ビジネスにおけるコンプラ

イアンス違反リスクの把握方法、独占禁止法・紛争解決・労務に関するリスクについて、実例を交えて講演していただきました。

・コンプライアンス・アンケート

当社で働く社員・派遣・パート・嘱託に対し、コンプライアンスの定着状況や気になり事項等の調査を実施しました。回収率は約60%で、多くの

貴重な意見や要望も寄せられ、今後の施策・立案に活用しております。

● TOYOKOHAN GATE 100

東洋鋼鈹は、ものづくりを通じて社員一人ひとりが人間として成長するという志を、創業から現在まで受け継いできました。今後は私たちが、これまでに築いてきたものを大事にしつつ、時代の流れに合わせて新たな文化を築き、100周年に向けて歴史を作っていかなければなりません。

その道程で迷ったとき、悩んだときに、いつでも原点に立ち返り、そこから再び未来に向かっていけるためのプラットフォームとして、従業員向けに小冊子「TOYOKOHAN GATE 100」を発刊しました。



## ● 個人情報の保護

当社では2005年6月に、「個人情報の保護に関する法律」の全面施行を受け、個人情報に関する全社的な取組を実現するため、『東洋鋼板個人情報保護方針』を制定しました。

当社は、事業活動を通じて取得した個人情報の取り扱いについて、法令等の順守を社会的責務と認識し、方針に基づいて個人情報の保護に努めてまいります。

なお、当社個人情報保護方針の内容は、当社ホームページ (<http://www.toyokohan.co.jp/>) に公開しています。



▲当社ホームページに掲載・公開されている個人情報保護方針

## 3. 社会貢献活動

当社は「社員の環境意識を高揚するために、教育、啓発、広報活動などを行うとともに、地域の環境改

善活動への自主的参加を支援します」を環境方針に掲げ、以下の取り組みを実施しております。

### ● 第7回市内一斉ゴミゼロ運動への参加

当社は、2003年より下松市環境衛生推進協議会主催の「市内一斉ゴミゼロ運動」に参加し、下松市豊井連合自治会の皆様と合同で豊井地区の清掃活動に取り組んでおります。今回は第7回として2009年5月31日に開催され、グループ各社から約200名が参加しました。



### ● 徳山・下松・光・新南陽港クリーン作戦参加

当社は、1996年より瀬戸内海沿岸にある周南地域の港をいつまでも美しく保つことを目的とした、海の月間行事の一環として行われている港クリーン作戦に参加しております。今回は2009年7月15日に実施され、グループ各社からも物流部門等の従業員が参加し、岸壁周辺を約1時間にわたって清掃しました。

### ● スチール缶リサイクル協会活動への参画

当社は、1973年よりスチール缶リサイクル協会(当時はあき缶処理対策協会)の一員として、各種行事および企画を通してスチール缶のリサイクル促進を推進しています。2008年度はスチール缶リサイクル協会共催のもと北海道小樽市、大分県別府市および神奈川県鎌倉市で開催された美化キャンペーンに参加し、地元ボランティアの方々と一緒に清掃活動やリサイクル啓発活動を行いました。



### ● 公道清掃実施

当社は、1996年より環境月間行事の一環として、毎年下松工場周辺の公道清掃を実施しています。2009年度は6月19日にグループ各社の従業員で工場周辺の清掃を実施しました。



### ● 千代田区清掃活動

千代田区一斉清掃の一環で、本社周辺(千代田区四番町)においても2009年6月8日に公道を中心とした清掃が行われ、当社も初めて参加いたしました。



### ● 「水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会」への参加

当社は、1998年より「水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会」に参加しております。今回は2008年10月11日、18日に山口県周南市鹿野にて開催され、当社からも従業員が参加し、森林に入り枝打ちや除伐作業などを行いました。



### ● 教育・スポーツ振興等に対する支援

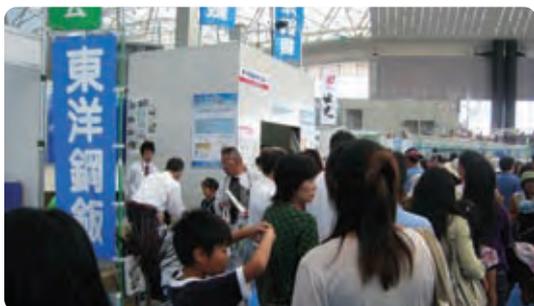
当社は、下松工場および事業所所在地の教育・スポーツの振興などに対して支援を行っております。

本年度は、下松市に対して、次世代育成支援を目的とした寄付を行いました。これは、当社の創立75周年を記念して、地域への感謝と益々の発展を願う地域貢献活動の一環として行ったもので、次代を担う子供たちが、豊かな心と夢を育み、健やかに成長していくための一助となることを期待したものです。

この寄付金は、「次世代の豊かな心と夢を育む、ふれあいプロジェクト」と称し、下松市内の小中学生が、音楽、文化、スポーツ、学問等様々な分野で活躍中の方々との「ふれあい感動体験」を通じて、学ぶこと、生きることの素晴らしさ、楽しさを体感し、夢を抱くことができる機会の提供を、当社が今後、継続的に支援していくものです。

### ● 山口いきいきエコフェアへ出展

2008年10月18日、19日の二日間にわたり、山口きらら博記念公園において「やまぐちいきいきエコフェア」が開催されました。当社も企業ブースを出展し、エコ製品の体験型ブースを設置するなど、当社の製品価値や環境への取り組みをPRする良い機会となりました。



## 4. 社会とのコミュニケーション

当社は「すべてのステークホルダーに対してコミュニケーションを実践し、社会との共生を図ります」を行動指針に掲げ、社会の理解を得て繁栄を分かち合うことを目指しています。

### ●環境報告書の発行

当社の環境活動状況を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただくため、2002年から環境報告書を発行しています。この間、報告対象範囲を下松工場から全社、そして当社グループ全体へと拡大してまいりました。

この報告書に対する皆様からのご意見を頂戴し、さらなる充実をはかっていくとともに、環境に関する情報開示を積極的に推進してまいります。



### ●ホームページでの環境情報公開

当社ホームページ (<http://www.toyokohan.co.jp/>) に、CSR・環境活動情報サイト「環境活動」を開設し、環境報告書の内容を公開し、より多くの皆様に容易に環境情報をご覧いただけるようにしております。



### ●第4回地域ふれあいデー

当社下松工場の一般開放イベントとして、2008年11月に「第4回東洋鋼鈹地域ふれあいデー」を開催いたしました。当日は約4,000名もの方々が来場くださり、従業員の家族や地域の皆様方との交流を一層深めることができました。工場見学会や小学生クイズ選手権大会をはじめ、マラソン大会、キャンバック・キャンペーン、科学体験コーナー、屋台、バザー、遊具、ステージイベント等の催し物を楽しんでいただきました。特に、今年は当社新製品のミラーコートKを使用した体験型ショールーム「どこでも光窓館」を設置し、当社の新しい技術と環境に対する取り組みを地域の皆様方に体感していただきました。また、昨年に引き続き開催されたキャンバック・キャンペーンでは、地

域の皆様方に空き缶を持参していただき、1日で約10,000缶を集めることができました。



なお、屋台やバザーの売上金は全額社会福祉協議会へ寄付いたしました。

今後も地域の皆様との相互理解を深めるための交流の場として、充実したイベントを目指してまいります。

### ●エコプロダクツ2008への出展

2008年12月11日～13日、東京ビッグサイト国際展示場にて「エコプロダクツ2008」が開催され、当社も光ダクトを取りつけた住宅模型などを出展しました。来場者は3日間で17万人を超え、東洋製罐ブースに設置したTULC缶を釣り上げるコーナーには多くの小中学生が集まり、環境に配慮したTULC缶をPRする良い機会となりました。



### ● 万代塀のフェンス化

当社創立75周年を機に県道沿いの万代塀を撤去し、白いフェンスを設置するとともに、一部建物も塗装しました。今まで見えなかった工場内の様子が見えるようになり、周辺の住民の皆様からは「明るいイメージで開かれた感じになった」と好評をいただいております。



### ● 工場・事業所見学の受入

当社は、地域の小学校から大学に至るまで、工場・事業所見学を積極的に受け入れており、その数は開始以来累計で約3,000名に上ります。この1年では、2008年10月に約30名、2009年5月には約90名の小中学生の皆様が来場されました。また、当社下松工場は2005年度より周南地域の商工会議所の呼びかけによる「周南地域産業観光ツアー」の見学コースになっており、ツアーに参加された方々は工場内を興味深く見学されました。



## 5. 従業員とともに

### ● 採用に関する基本方針

当社は、企業を支え継続的に成長させる源は人であるとの認識から、採用活動には特に力を入れています。製造現場から技術・事務スタッフまで安定した採用をし、研究開発力や製造技術力の向上およびノウハウの伝承に努めております。また、中途採用にも力を入れており、外部の文化を取り入れた多様性のある会社を目指しています。

### ■ 再雇用制度

意欲と能力のある方にできるだけ長く働き続けていただくために、当社では定年退職後の再雇用制度を設けています。平成21年度以降の定年退職者には5年間(65歳まで)の雇用期間を予定しています。

### ● 次世代育成支援

当社は、仕事と子育てや介護の両立のための働きやすい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献して参ります。

具体的には、2006年4月に、下松市美里町の鋼板幼稚園に企業内託児所「星の子保育園」を併設し、下松地区勤務以外の従業員に対しては、託児所利用補助制度(子1人につき月額2万円まで補助)を設け、環境設備の充実に取り組んでおります。また、ボランティア活動や育児、介護、高校卒業までの子の学校行事参加の際、取得できる休暇制度を設け、すべての従業員がその能力を十分に発揮できるよう取り組んでいます。

### 「星の子保育園」施設概要

所在地 山口県下松市美里町1丁目9番1号  
「鋼板幼稚園」に併設  
対象者 東洋鋼板グループに勤務する従業員の子供  
運営内容 「月極め保育」「リレー保育」「一時保育」  
広さ 約123.6m<sup>2</sup>  
定員 15名



## ●安全衛生、防災への取り組み

下松工場は、下記の安全衛生方針に基づき安全で安心な工場づくりに取り組んでいます。

### 1. 下松工場の安全衛生方針

下松工場は、「安全衛生・防災・環境は全てに優先し、オール<sup>®</sup>の自主管理のもとに推進する」を基本方針に、全員参加で安全かつ健康で快適な職場の構築に努めています。

- 1) 安全衛生・防災・環境活動を CSR の最優先事項とし、強力で推進します。
- 2) リスクアセスメント活動を主体とした安全活動を推進して労働災害の防止を図ります。
- 3) CSR・安全・防災・環境をパーフェクトに推進するため、安全教育を充実、実施します。
- 4) 安全に対する意識向上と行動面の強化を図るため、3S と挨拶の励行を徹底します。

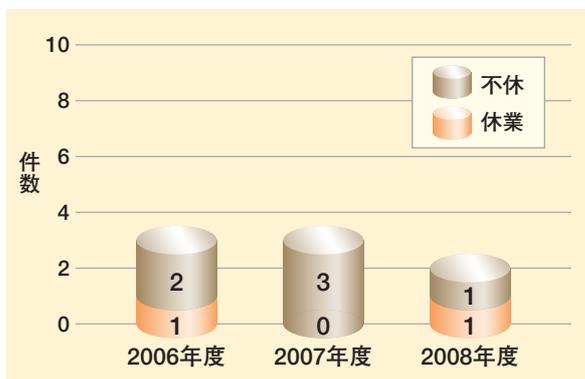
### 2. 安全衛生委員会の議事内容と従業員への周知

安全衛生委員会は1回/月の頻度で開催しており、安全衛生委員長以下、各職場の代表38名の委員で構成されています。会議は委員長の挨拶、安全・防災GLおよび環境GLによる資料説明、産業医のコメントの後、職場から提案、意見交換や質疑応答が行われ、工場一丸となって安全衛生・防災・環境活動を推進しています。安全衛生委員会議事録はフォーラムに掲載すると共に、委員会だよりを発行し全員に周知徹底しています。

項目	内容
1) 事故・災害関係	無災害記録、労働災害統計、私傷病統計、交通事故発生状況
2) 法定・定期測定結果	作業環境測定結果、放射線施設点検結果、ばい煙、排水関係等
3) ヒヤリ・ハット事例紹介	各職場から出されたヒヤリ・ハットの分析と事例紹介
4) 依頼事項・情報	安全衛生・防災・環境に関する依頼、情報の周知徹底
5) 審議・検討事項	工場長指示事項の具体化の討議および進捗状況報告
6) 産業医のコメント	メンタルヘルスや新型インフルエンザ等の健康管理全般に関する情報
7) 当面の活動計画	安全衛生関係、防災関係、環境関係の活動予定

〈参考〉

〈災害発生トータル件数〉



〈度数率・強度率<sup>※</sup>〉



※度数率：100万延時間当たりの労働災害による死傷者数  
強度率：1,000延時間当たりの延労働損失日数

〈健康/安全に係る支出額(2008年度)〉 (円)

項目	総額	人数	一人当たり
労災保険	42,235,743	1,101	38,361
安全対策費	121,800,000	1,101	110,627
健康診断	29,991,590	1,101	27,240

※人数は労災保険支払い人数に合わせた(技研除く)。

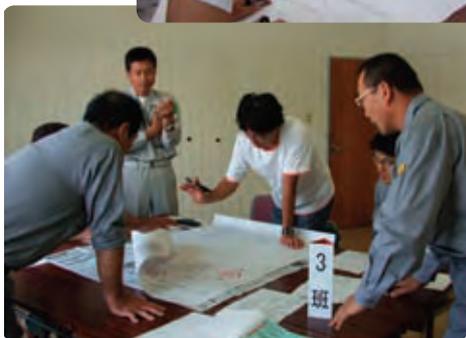
### 3. 新入社員安全教育の充実

新入社員の安全教育に危険体感教育、設備安全教育を織りこみ危険に対する感受性の向上および設備に関する基本的な知識・技能を習得し、安全かつ円滑な運転作業ができるよう安全教育を充実させました。



### 4. 災害事例研修会

過去に発生した労働災害を分析すると安全意識の低下によるものが多いことから2007年度から引き続き従業員全員を対象に安全意識向上を目的とした災害事例研究会を開催しました。



### 5. 社内安全衛生大会

毎年6月、7月と展開しています「チャレンジゼロ災2009」運動行事の一環として、第18回社内安全衛生大会を開催いたしました。下松労働基準監督署長のご挨拶をはじめ、整備課の事例発表、記念講演では下松警察署丸山交通課長より「二輪車の交通安全について」と題しご講演をいただきました。多いに啓発された大会となりました。



### 6. 全員参加のゼロ災活動を展開

本事務所でも朝礼時と終礼時にゼロ災唱和を行い、意識レベルの切替、および労働災害ゼロ、交通事故ゼロを誓い、全員参加のゼロ災活動を展開しています。



## 7. 健康管理

### 1) 健康講演会

2008年10月22日、東洋鋼鈹診療所の岸野朝子保健師を講師に「他者とのコミュニケーションの中での自分—交流分析を使って—」と題して講演会を開催しました(受講者200名)。

また、10月、1月に本社で、12月には大阪支店で同様の講演会と健康指導を行いました。



### 2) 禁煙マラソン

2004年9月から健康保険組合と診療所の共催で、従業員の喫煙者を対象に3ヶ月の禁煙ーフマラソンを開催し、禁煙パッチの無償配布や禁煙中のメンタルケアを行っています。また、禁煙月間として6/1～6/30の間、工場構内12ヶ所の事務所や控室を訪問し、「呼気中の一酸化炭素測定」、喫煙室およびその周辺の粉じん測定を行い禁煙指導を実施しました。

### 3) ウォーキング大会

本社・支店・工場でウォーキング大会を実施しました。

【本社】 第3回ウォーキング大会  
2008年6月14日(土)

第4回ウォーキング大会  
2008年10月25日(土)

【支店】 第1回ウォーキング大会  
2008年10月26日(日)

第2回ウォーキング大会  
2009年1月18日(日)

【工場】 笠戸島ウォーキング大会  
2008年11月29日(土)笠戸島



## 6. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント

### ● サプライチェーンマネジメント

当社は市場変動への迅速な対応と効率的な生産を目指して、サプライチェーンマネジメント活動を積極的に推進しています。原材料調達～自社生産・販売～顧客使用という一連の過程においても

環境への配慮が重要であるとの認識にたつて、情報を共有化する枠組みを構築しながら、環境負荷低減に取り組んでいます。

## 7. 品質マネジメントシステムの活動

### ● 製品含有規制化学物質管理の取組み方針および充実化計画

#### 1. 取組み方針

- 顧客指定の規制化学物質を“入れない(調達品管理)”、“使わない(工程内管理)”、“出さない(製品管理)”。
- 現行の技術でやむを得ず使用する規制化学物質は、使用量の削減、代替品の検討、新たな技術の開発等により削減を検討・推進する。

#### 2. 充実化計画

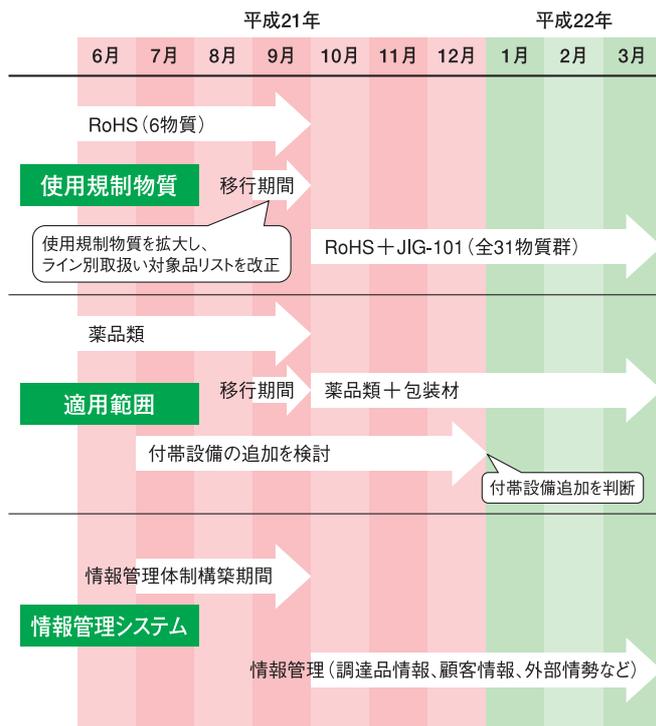
2008年10月にスタートした当社の製品含有規制化学物質管理は、その後ますます高度化・複雑化した市場の環境対応要求に応えるために、以下の内容で管理の充実化を進めています。

##### 1) 実施項目

- ①使用規制物質の拡大(6物質 ⇒ 31物質(右表参照))
- ②適用範囲の拡大(薬品類 ⇒ 包装材を追加)
- ③情報管理システムの充実(調達品、顧客、外部情勢等の情報を効率的に活用するための仕組み)

注) 本管理はQMSの共通活動であり、顧客ごとの独自の要求に対しては従来から別途管理しています。

##### 2) スケジュール



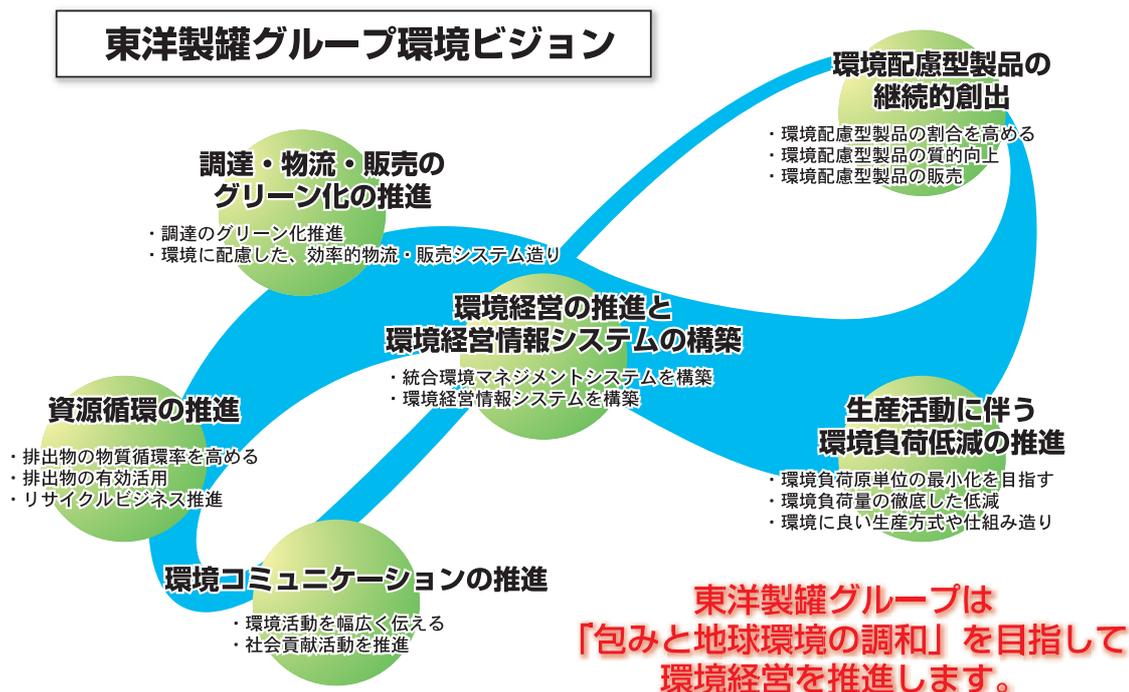
＜東洋鋼鈑(株)製品用／含有規制化学物質(群)リスト＞

化学物質群	Ⓚ 閾値
1 アスベスト類	意図的添加
2 一部の芳香族アミンを生成するアゾ染料・顔料	30ppm
3 酸化ベリリウム(BeO)	1,000ppm
4 臭素系難燃剤 (PBBとPBDEまたはHBCDD以外)	1,000ppm
5 カドミウム/カドミウム化合物	100ppm
6 六価クロム化合物	1,000ppm
7 五酸化ニヒ素	1,000ppm
8 三酸化ニヒ素	1,000ppm
9 フッ素系温室効果ガス(PFC、SF6、HFC)	意図的添加
10 ホルムアルデヒド	75ppm
11 ヘキサブロモシクロドデカン(HBCDD) およびすべての主要ジアステロ異性体	1,000ppm
12 鉛/鉛化合物	1,000ppm
13 水銀/水銀化合物	意図的添加 または 1,000ppm
14 ニッケル	意図的添加
15 オゾン層破壊物質	意図的添加
16 過塩素酸塩	0.006ppm
17 パーフルオロオクタンスルホン酸塩(PFOS)	意図的添加
18 フェノール、2-(2H-ベンゾトリアゾール-2-yl)-4、6-ビス(1,1-ジメチルエチル)	意図的添加
19 フタル酸エステル類 (DEHP、DBP、BBP、DINP、DIDP、DNOP)	1,000ppm
20 ポリ臭化ビフェニル類(PBB類)	1,000ppm
21 ポリ臭化ジフェニルエーテル類(PBDE類)	1,000ppm
22 デカ-BDE(PBDE)	意図的添加
23 ポリ塩化ビフェニル類(PCB類) および特定代替品	意図的添加
24 ポリ塩化ターフェニル類(PCT類)	意図的添加
25 ポリ塩化ナフタレン類(塩素原子3個以上)	意図的添加
26 ポリ塩化ビニル	1,000ppm
27 放射性物質	意図的添加
28 短鎖型塩化パラフィン類(C10-C13)	1,000ppm
29 一部のトリブチルスズ(TBT)およびトリフェニルスズ(TPT)化合物	意図的添加
30 トリブチルスズ=オキシド(TBTO)	意図的添加 または 1,000ppm
31 リン酸トリス(2-クロロエチル)(TCEP)	1,000ppm

・本リストは製品に対する共通管理基準であり、リスト以外の顧客の個別要求基準については別途管理を行う。

# 東洋製罐グループとしての活動

当社は、東洋製罐グループの一員として、2002年7月に組織された東洋製罐グループ環境委員会に参画し、環境経営の実現に向けた諸施策の検討および推進活動を展開しています。



## ● グループの環境経営の推進

グループ環境経営を推進するために、2002年7月に東洋製罐グループ環境委員会が組織されました。東洋鋼鋳は常任委員として年2回開催される委

員会において、環境経営の実現に向けた進捗状況を把握するとともに推進活動を展開しています。

## ● グループ環境ビジョンの推進

東洋製罐グループでは、経営課題である「包みと地球環境の調和」を目指して、全員参加による環境経営の推進に取り組んでいます。

この環境経営活動を具体化するために、以下の6項目からなる環境ビジョンを2004年5月に策定しました。

これらの環境ビジョンを実現するために2010年までの環境目標と行動計画をまとめた「東洋製罐グループエコアクションプラン2010」を2006年2月に策定しました。東洋鋼鋳では、2006年度から

このアクションプランに基づき活動し、目標を達成することにより東洋製罐グループ環境ビジョンの実現を目指します。

- I. 環境配慮型製品の継続的創出
- II. 生産活動に伴う環境負荷低減の推進
- III. 調達・物流・販売のグリーン化の推進
- IV. 資源循環の推進
- V. 環境コミュニケーションの推進
- VI. 環境経営の推進と環境経営情報システムの構築

# 環境保全活動の歴史

## 環境保全活動

	設備関係	組織、体制関係
1934年	会社設立	
1959年	石炭ボイラーから重油ボイラーへ転換	
1960年	石炭発生炉ガスからLPGへ転換	
1964年	含油排水処理装置(自然浮上槽)設置	
1965年	硫酸処理設備設置(硫酸鉄のリサイクル開始)	
1970年	含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置	
1971年	総合排水処理設備設置 (還元-中和-凝集沈殿-脱水)	
1972年	ボイラー130m煙突設置 含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)増強 ビニトップライン湿式電気集塵装置設置	
1973年	総合排水処理設備増設(2系列化) 硫酸処理設備増強 二宮町境界線沿い防音壁設置 クロム流出事故(改善命令)	環境管理室を設置 当直課長、公害担当交替係長制導入
1974年	アルカリ含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置 総合排水処理設備(還元-中和槽)増強 二宮町境界線沿い騒音常時監視システム設置	
1976年	低硫黄重油自動混焼装置設置	
1979年		公害担当交替係長制から 交替係長制に変更
1981年	スカム酸処理設備設置 (廃油スカムのリサイクル開始)	
1986年		「ハイペット」営業生産設備稼働
1989年	フィルタープレス脱水機導入	
1991年		第1回CBC実施 (CBC: Can Back Campaign)
1993年	磁気ディスク用基板製造工場 排水アルカリ処理設備設置	新当直制度導入(交替係長制廃止)
1997年	磁気ディスク用基板製造工場 排水生物処理設備(没水濾床式)設置	
1999年		下松工場ISO14001認証(12.22)
2000年	No.3焼却炉廃止(可燃性廃棄物社外委託処理開始)	「ファイントップ5、6」 営業生産開始
2001年		「シルバートップエコ」 営業生産開始
2002年	No.1、2焼却炉廃止(廃油の社外委託処理開始)	下松工場環境報告書発刊 東洋鋼鋸グループ環境委員会発足
2003年	LPGからLNGへ転換	本社に環境部を設置 東洋鋼鋸グループ環境会議発足
2004年		東洋鋼鋸グループ統合 ISO14001認証取得(12.16) 東洋鋼鋸全社環境報告書発刊
2005年	樹脂リサイクル設備設置 保護ガス製造設備更新	
2006年		東洋鋼鋸グループ環境報告書発刊
2007年	都市ガスボイラー設置	

#### 報告書の要件

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 対象組織 | 東洋鋼鋳グループ (ISO14001 グループ統合認証取得 8 社*)<br>* 連結対象範囲とは一部異なります。  |
| 2. 対象期間 | 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日<br>(一部 2009 年 8 月までの情報も含まれます)   |
| 3. 発行日  | 2009 年 10 月 (次回発行予定は 2010 年 10 月)  |
| 4. 対象分野 | 環境的側面を中心に社会的側面も報告の対象としています。  |
| 5. 作成部署 | 東洋鋼鋳株式会社 管理本部 環境室  |
| 6. 連絡先  | 東洋鋼鋳株式会社 管理本部 総務部<br>〒102-8447 東京都千代田区四番町 2 番地 12<br>TEL 03-5211-6200 FAX 03-5211-0181<br>ホームページアドレス <a href="http://www.toyokohan.co.jp">http://www.toyokohan.co.jp</a> |



 **東洋鋼鋳株式会社**

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12

TEL 03-5211-6200 FAX 03-5211-0181

<http://www.toyokohan.co.jp>

…………ご意見をお寄せください。…………